【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成17年9月2日(2005.9.2)

【公開番号】特開2003-78837(P2003-78837A)
【公開日】平成15年3月14日(2003.3.14)
【出願番号】特願2002-165841(P2002-165841)
【国際特許分類第７版】
Ｈ０４Ｎ　5/445
Ｈ０４Ｎ　5/44
Ｈ０４Ｎ　7/08
Ｈ０４Ｎ　7/081
Ｈ０４Ｎ　7/173
【ＦＩ】
Ｈ０４Ｎ　5/445　Ｚ
Ｈ０４Ｎ　5/44　Ａ
Ｈ０４Ｎ　7/173　６２０Ｚ
Ｈ０４Ｎ　7/08　Ｚ

【手続補正書】
【提出日】平成17年3月8日(2005.3.8)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
画面合成部３９は、テレビジョン画面生成部２０で生成されたテレビジョン画面と、マイコン５９のＷＷＷブラウザ処理により生成されたブラウザ画面とに基づき、モニタ４０に表示される画面を求める。画面合成部３９は、マイコン５９からの制御に従い、テレビジョン画面およびブラウザ画面のいずれか一方を選択して出力する。あるいは、画面合成部３９は、テレビジョン画面とブラウザ画面との２画面を同時に含んだ表示画面を得るために、固定スケーリング部３８を用いてブラウザ画面のサイズを固定的に縮小する。いずれにしても、画面合成部３９における処理は、テレビジョン受信機９で固定的に定められている。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１１】
ブラウザ起動コマンドが入力された場合、マイコン５９は、インターネット４に接続されたサーバ３から、取得したＵＲＬ１１２に対応したコンテンツ１０２を受信する（ステップＳ９０４）。次に、マイコン５９は、受信したコンテンツをモニタ４０の画面全体に表示させるために、画面合成部３９に対して全画面表示を指示する（ステップＳ９０５）。次に、マイコン５９は、受信したコンテンツに基づき、ブラウザ画面を生成する（ステップＳ９０６）。マイコン５９によって生成されたブラウザ画面は、画面合成部３９に供給され、画面合成部３９が管理する表示プレーン（図示せず）に記憶される。画面合成部３９は、ステップＳ９０５で全画面表示の指示を受けているので、マイコン５９から供給されたブラウザ画面をそのままの状態で出力する。これにより、モニタ４０には、ブラウ

ザ画面が画面全体に表示される。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４３】
次に、テレビジョン受信機２の各構成要素について説明する。テレビジョン画面生成部２０は、アンテナ２１、チューナ２２、トランスポートストリームデコーダ２３（以下、ＴＳデコーダと略称する）、および、オーディオビデオデコーダ２４（以下、ＡＶデコーダと略称する）を含んでいる。アンテナ２１は、テレビジョン放送装置１から送信されたデジタルテレビジョン放送の電波を受信し、受信した電波を電気信号に変換して出力する。チューナ２２は、アンテナ２１の出力信号から所定の周波数帯の信号を選択し、選択した信号を復調する。これにより、チューナ２２は、ＭＰＥＧ（Moving Picture Experts Group）規格に準拠したトランスポートストリームを出力する。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６１】
次に、図３を参照して、テレビジョン放送装置１の動作を説明する。図３は、テレビジョン放送装置１の動作を示すフローチャートである。テレビジョン放送装置１では、まず、多重化部１１に対して、テレビジョン信号１０１が入力される（ステップＳ１０１）。ステップＳ１０１で入力されるテレビジョン信号１０１は、テレビジョン番組を構成するオーディオ信号とビデオ信号とを多重化して得られたトランスポートストリームである。次に、多重化部１１に対して、テレビジョン受信機２のＷＷＷブラウザ機能を制御するためのブラウザ制御データが入力される（ステップＳ１０２～Ｓ１０４）。より詳細に述べると、多重化部１１に対して、ステップＳ１０２ではブラウザ表示指示１１１が入力され、ステップＳ１０３ではＵＲＬ１１２が入力され、ステップＳ１０４では表示スタイル情報１１３が入力される。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００６６
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００６６】
次に、図４を参照して、テレビジョン受信機２の動作を説明する。以下では、ある会社Ａによって製造販売される製品ａのコマーシャルメッセージが、テレビジョン放送される場合を例として取り上げる。会社Ａはインターネット４に接続されたサーバ３を管理しており、サーバ３には製品ａを紹介するコンテンツ１０２が蓄積されているとする。コマーシャルメッセージの制作者は、製品ａのコマーシャルメッセージが放送されるときに、視聴者にコンテンツ１０２にアクセスしてもらいたいと考える。そこで、テレビジョン放送が製品ａのコマーシャルに切り替わるときに、テレビジョン放送装置１は、入力されたテレビジョン信号１０１に、ブラウザ表示指示１１１とＵＲＬ１１２と表示スタイル情報１１３とを多重化して送信する。図４は、これら３種類のブラウザ制御データが多重化されたテレビジョン信号をテレビジョン受信機２が受信した後の、マイコン５１の動作を示すフローチャートである。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】００７５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００７５】
終了コマンドが入力された場合、マイコン５１は、ブラウザ画面を消去するために、画面合成部３０に画面消去を指示する（ステップＳ２０９）。ステップＳ２０９が実行された後、画面合成部３０は、テレビジョン画面生成部２０で生成されたテレビジョン画面を出力する。ステップＳ２０９の後、マイコン５１は、ＷＷＷブラウザ処理を行うことなく、ブラウザ表示指示１１１に関する処理を終了する。
【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００９９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００９９】
以上に示すように、本実施形態に係るテレビジョン受信機は、予約コマンドが入力されたときに、ＵＲＬとコンテンツとをメモリに蓄積し、再生表示コマンドが入力されたときに、蓄積したＵＲＬとコンテンツとを用いてＷＷＷブラウザ処理を行う。このようにコンテンツを蓄積することにより、サーバに再度アクセスすることなく、予約一覧表示を行い、予約したコンテンツを再生表示することができる。また、このようにＵＲＬを蓄積することにより、ＵＲＬを再び取得することなく、過去にアクセスしたコンテンツにアクセスすることができる。よって、本実施形態に係るテレビジョン受信機は、第１の実施形態に係るテレビジョン受信機と比較して、さらに高い利便性を有する。